

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2016-秋

No.82

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



菌の長浜 多伎町 出雲路 1998年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

フェス旧市街

(モロッコ王国)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©UNESCO

モロッコ北部の内陸都市フェスは、九世紀初め北アフリカの一角を支配したイドリース朝の首都として建設された。十三世紀のマリーン朝時代に飛躍的に発展し、西方イスラムの宗教、学術の中心となった。モロッコ最古のカラウイーン・モスク（九世紀）、十四世紀創立の神学校などのイスラム史跡や、メディナ（旧市街）のたたずまいが残されている。

（一九八一年に文化遺産として登録）

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

御挨拶

文化芸術立国への道 ——文化庁長官就任にあたって

本年四月一日をもちまして第二十二代文化庁長官に就任いたしました宮田亮平です。

貴財団では五年余、理事長を務めさせていただきました。この間、多くの方々に支えられ、無事、財団を運営できましたことを心より感謝申し上げます。

私の長官就任に関しては、皆さまからいろいろ驚きの声が寄せられましたが、当事者である私自身も、東京藝術大学の学長に再任されたばかりであり、また二〇二〇年の東京オリンピック、パラリンピックのエンブレム委員会の委員長も仰せつかっておりましたので、長官就任を打診されたときは晴天の霹靂（へきれき）の感から免れることはできませんでした。

文化庁は文部科学省の外局にあたり、その役目は文化の振興・普及、文化財の保存・活用、宗教に関する行政を行う役所です。とは申せ、ここに上げた言葉の意を汲みとり、個々の案件に対応するのは並の努力では解決できません。逆に言えば、それだけやりがいのあるものだ、私は思っております。

文化庁は、国家戦略として「文化芸術立国」をめざしています。各論は別にして、そのための六つの重点戦略を記してみます。

- ①文化芸術活動に対する支援の在り方の抜本的見直し
- ②文化芸術を創造し、支える人材の充実
- ③子どもや若者を対象とした文化芸術振興策の充実
- ④文化芸術の次世代への確実な継承
- ⑤文化芸術の観光振興、地域振興等への活用
- ⑥文化発信・国際文化交流の充実

この戦略が提案された当時、私自身、芸術の世界に身を置く立場として、いずれも大変結構なことと思っております。問題は国家として、こうしたプロジェクトに取り組むための十分な予算措置をとっているかでしょう。誠に残念なことに国家予算に占める文化予算の割合は、日本は極めて、低いのです。これでは我が国の「文化芸術立国」への道は前途遠遠です。こうした状況を打破するために努力せよ、というのが天の声であり、私自身に課せられた使命だと肝に銘じております。

文化庁が数年内に京都に移転することは、皆さまご存じのとおりです。京都側の全面的な協力のもと、移転するわけですが、庁舎の問題、東京にどのような機能を残すべきかという問題など、解決しなければならぬ問題は膨大です。

そうした中、一番の問題、あるいは問われるものは移転の意味、そして京都に移った文化庁がそこで何をやるのか、ということでしょう。

文化庁は、今年三月の「政府関係機関移転基本方針」で、新たな政策ニーズへの対応を含め、機能強化を図りつつ、京都移転を進めることとされました。この方針に基づき、現在文化庁は、文化芸術を資源としてとらえて積極的に活用すること、また従来の文化芸術の範囲に閉じることなく、観光・産業、教育、福祉、まちづくり等の様々な関連分野との連携を強化し、総合的に施策を推進するなど、文化行政の大胆な転換が必要だと考えています。

二十一世紀が始まった時、誰もが新世紀という言葉



文化庁長官
宮田 亮平
(みやた・りょうへい)

葉の響きから希望を感じとったと思います。しかし、現実には九・一一事件に象徴されるようにテロの時代の幕開けでもありました。

有名なユネスコ憲章は冒頭で「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と述べています。私は「平和のとりで」を築く構築資材こそ文化であり、芸術の力であると信じます。その意味でも微力ではありますが、長官である私が先頭に立ち、文化庁は丸となって課せられた使命を全うする所存です。

最後になりましたが、地球温暖化によるものでしょうか。この秋、日本列島は週末ごとに台風に襲われ莫大な被害をこうむりました。また四月の熊本地震も記憶に新しいところです。

文化庁は先の東日本大震災の時と同様に熊本地震に際しては、被災文化財の復旧・支援事業に貴財団と共に取り組んでおります。こうした官民一体となつて問題に取り組む姿勢は大切にしたいと思っています。それは、来るべき東京オリンピック、パラリンピックにおいても同様です。

様々な事情から私は文化庁長官就任と相成ったわけですが、幸いにも後を継いでくださった宮廻正明先生は貴財団への理解が大変深い方なので、私自身、新理事長に大いに期待いたしております。

文化庁長官として意欲に燃えている私ですが、長官としてはまだまだ駆け出しの身です。皆さま、どうか私の意をお汲みとりのうえ、よろしく御指導、御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

熊本地震と被災文化財

本年四月、熊本地方を立て続けに襲った地震。
肥後もつ、この誇りである熊本城はじめ、多くの文化財にも多大な被害が発生。
人々の心のよりどころである文化財の救済は復興への大きな力に……。

地震発生

平成二十八年四月十四日夜九時半前、熊本地方を震源としたM六・五の地震が発生し、熊本県益城町で震度七を観測したのをはじめとして、九州北部の広い地域で大きな揺れに見舞われた。直後に地震発生情報が入り、その時点で連絡可能であった熊本県教育委員会の担当者や博物館施設関係者から主に熊本市内における被害状況の第一報がもたらされた。その間、震度六程度の余震が何度も継続しており、安定した状況ではなかったが、夜間の地震でもあり、また報道では大きな火災などの被害は特に出ていないようなので、具体的な情報収集は翌十五日から開始することとなった。十五日午前九時半段階では、早くも熊本城の被害に関して非公式な情報が入っており、この時、既に天守閣の鯨鉦が二基とも落下したことが伝わってきている。この日の午後にはさらに熊本城の石垣崩落の報が入り、このほか重文建造物や史跡の被害も積み上げられていった。またこの頃から夕方にかけて他の周辺県の被害状況についても情報が入り始めている。

ところが信じられないことに、今回の地震では最初の大きな揺れが起きたわずか二十八時間後の十六日未明にそれを上回る大地震が再度発生した。

現地では文字通り休む間もなく揺れから身を守らねばならなかったことであろう。そのため被災した人々の多くは建物の中に安住することができず、車中で夜を明かす姿も多く見られた。

被害状況

今回の一連の地震による被害は、建造物、史跡、名勝、美術工芸品、その他と実に多岐にわたる。特に早くから報道などによって現地の映像が伝わってきた熊本城の櫓の倒壊や石垣の崩落、阿蘇市の阿蘇神社楼門の大破などは、この地震が持つエネルギーの凄まじさを目の当たりにさせるものであった。熊本城では城郭を構成する総ての文化財建造物、都合十三棟に被害が及び、五十箇所以上の石垣崩落が認められている。このほか重文建造物としては熊本大学の旧第五高等学校や大津町の江藤家住宅などの被害が大きく、史跡の熊本藩主細川家墓所の石灯籠や、美術工芸品の宇城市の浄水寺碑などの石造物が倒れたりずれたりしている。驚いたことに鐘楼に吊られていた総高一七〇センチを超える熊本市の大慈寺梵鐘が揺れの勢いで落下しており、目を登録建造物等に向けるならば瓦の落下や外壁の亀裂など大小無数の被害が出ている状況である。未指定の歴史資料や古

文化財ドクター派遣事業・文化財レスキュー事業

被害状況が刻々と伝わってくる中、被災した文化財建造物の診断調査や修理のための技術的支援、散逸・滅失のおそれのある動産文化財の安定化を図る救援活動の必要性を認め、文化庁では今回も

五年前の東日本大震災の折と同様に、熊本県の要請を受けて「文化財ドクター派遣事業」「文化財レスキュー事業」を実施することとした。

東日本大震災後、その経験と反省を踏まえて、文化庁文化財部に「文化財等災害対策委員会」を、また独立行政法人国立文化財機構に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置している。これに

よって文化財に関わる多くの団体において日頃から文化財防災に関する課題の共有や情報の交換を維持・推進し、ひとたび自然災害が発生した際にはより迅速に対応にあたる体制を作ることが期待されている。今回はこのような組織が構築されて初めての大規模自然災害であった。被災地の文化財行政担当者とは、地域のヘリテージ・マネー



大きく崩落した熊本城の石垣（熊本市提供）



救出され一時保管された文化財（九州国立博物館提供）



文化庁美術学芸課
主任文化財調査官（絵画）
朝賀 浩
（あさか ひろし）

文書類、民具や美術品にいたってはその被害の全貌は未だ見当も着かない。



倒壊家屋から緊急レスキュー（九州国立博物館提供）

ジャーや博物館学芸員、大学や学会の研究者らが連携して対処している。東日本大震災の折に大きな反省点となった動産・不動産の両分野の連携も意識的に模索されている。地域の文化財防災の意識は徐々に高まってきており、その成果が結実する印象を抱いている。

熊本地震の特徴と課題

今回の熊本地震では、阪神・淡路大震災の時のように都市部で大規模な火災が発生することや、東日本大震災のような広域的な津波の被害が出るようなことはなかった。しかし今回の地震の特異な点は、非常に大きな揺れの余震が長期にわたり継続したことであった。当初は本震と考えられた四月十四日の震度七の揺れは、のちに再び発生した同規模の揺れの前震とされ、その後も震度五弱を超える大きな揺れが止むことなく続くように思われた。そのため被害に遭った被災地の人々は、建物の中で安心して身体を休めることが出来ず、車中で睡眠をとったり、移動を繰り返したりした。これによって各地域の文化財担当者がそれぞれの地域の文化財の安否確認をしようとする際に、それらの所有者と十分な連絡が取れず、このため文化財の状況把握がはかどらないという事態となっていたようだ。しかしこのような厳しい条件の中でも多くの志ある人々が結集して連日被災した文化財の救出活動が続けられている。

最初の大きな揺れに見舞われてから早くも半年が経過した。だが被災文化財の救出活動や復旧はまだまだこれからが正念場である。

人々の安心できる生活が少しでも早く取り戻されることを祈念するが、そのためにも地域のアイデンティティ、郷土のシンボルとも言える文化財の復興にも力を注いでいくことが求められているのだと考える。

「クローン文化財」による 新たな文化共有の提案

遺伝子工学の進歩は人類に福音をもたらすと共に大きな問題も投げかけている。
宮廻チームが追求する「美」のクローン技術は文化財保存への大きな福音を……。

「クローン文化財」開発の経緯と理念

現代社会において、文化財は嚴重に保存される一方で、公開が求められるという矛盾を抱えている。最も確実な保存方法は非公開としてしまっておくことであるが、文化遺産や文化財は各国にとつては重要な観光資源でもあり、人類の貴重な共有財産として公開が求められる。歴史的・文化的価値の高い考古遺物や芸術作品が広く公開されることは文化の発展には意義深いことであるが、保存と公開を両立させるのは今までは不可能であると考えられていた。こうした不可能なことの中にこそチャンスがあると考えた東京藝術大学では、芸術と科学技術の混在による高精度な文化財の複製「クローン文化財」の技術開発に着手した。

クローン文化財は、人の手技や感性を取り入れることによって生まれる伝統的なアナログ技術に最先端のデジタル技術を混在させることにより、単なる複製ではなく新たな芸術を生み出すことを目指している。文化財のクローンをつくることで、劣化を避けるためにオリジナルの公開を制限しながら、常時オリジナルと同価値、あるいはそれ以上のものを公開できるという発想である。コピーやレプリカと訳されるような単なる複製作品ではなく、オリジナルと同素材、同質感で

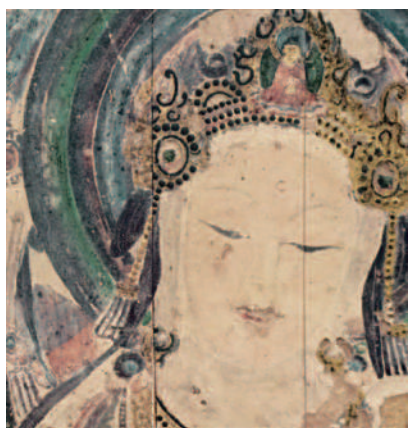
感動を生み出すことである。復元した文化財が見る人にどう映るか、どう感動してもらえるかということとを大切にして仕事を進めている。

「クローン文化財」の利点

クローン文化財があれば、誰もが本物と同価値のクローンを通して、世界中の名品に容易に接することができる。もともと大きな特長は、流出・破損・消失などにより、すでに喪失してしまった美術品も再現可能などところにある。単に公開するための複製ではなく、制作当初まで復元するなど幅広い目的に応じた複製制作が可能になり、そこに従来のレプリカとは一線を画す付加価値が生まれるといえる。普及のためにはより



三次元への挑戦。高精細3D技術を用いて法隆寺の銅造釈迦三尊像(国宝)の写しの制作に取り組む東京藝術大学COI拠点のメンバー。右下・筆者



敦煌莫高窟第57窟の南壁中央の仏説法図の右脇侍観音菩薩。平山郁夫画伯をして「これぞ日本文化の源流」と言わしめた莫高窟一の美女もクローン文化財の技術で艶やかに蘇る

観音菩薩の複製が教育や美術の常識として普及する。また、直接手で触れ触覚により文化財に親しむことができるのもクローン文化財の効用のひとつ

あるだけでなく、技法、素材、文化的背景など、芸術のDNAに至るまでを再現する、まさに文化財のクローンなのである。
このクローン文化財の制作に当たっては、原本の詳細



2016年5月、三重県で開かれた「G7伊勢志摩サミット」の会場で、オバマ米大統領をはじめ、各国首脳にクローン文化財を説明する筆者。

短時間に精密な複製を制作できることが求められるが、コストや制作にかかる時間はデジタル技術の併用で大幅にカットすることができた。文化財保存のために伝統的に行われてきた「模写」は職人技の手仕事であり、仕上がりには個人差が出る上に膨大な時間と労力が必要とされたが、クローン文化財の技術ではそうした問題が解消されている。

また、完成したクローン文化財は展示公開にも多くの利点を持つ。原本を別の場所に移動できない場合にも、クローンなら世界を巡回でき、いわゆる「移動美術館」も可能になる。逆に原本が不在の場合でも、質の高い代替展示を行うことができるため、たとえば旅先で、見に行つた時に見たいものがないと悔しい思いをすることもなくなるのである。文化財のクローンが普及すれば、展覧会や美術館博物館のコンセプトにも大きな影響を与える事ができる。たとえばフェルメールの絵画は希少であり、作品一点が公開される度に美術館に長蛇の列ができるが、クローンによってフェルメールの作品を一同に集めれば、一点ずつの作品ではなく「フェルメール」全体を見ることができ、世界中に点在するゴッホのひまわりをすべて集めることも可能だ。画集でしか見られなかったものがいっぺんに、しかもいつでもじっくり見られる。これまでの展

細な調査を行い、絵具や基底材など素材の成分・表面の凹凸・筆のタッチまで忠実に再現している。しかし、真の目的は学術的に信憑性・妥当性の高い複製や復元を行うことではなく、文化そのものを継承し、新たな



復元された法隆寺金堂壁画(東京藝術大学にて)。壁画は1949年(昭和24年)焼損。この事件をきっかけに文化財保護法が制定された



財団理事長
東京藝術大学大学院美術研究科
教授・社会連携センター長
宮廻 正明
(みやまき・まさあき)

今後の展望

クローン文化財の理念と技術は、文化財の保存と公開という矛盾を解決するために有効であり、将来的に芸術文化の伝承手段として定着させたいと考えている。当財団の創設者でもある平山郁夫・元理事長が発起人として進められてきた文化財に関する尊い提言を一步進める事になり、文化外交の一助としても期待され、可能性は無限大にある。クローン文化財の概念を芸術の力で支え、大きな感動の輪に広げていくことで、このプロジェクトが豊かな世界を作りあげていく基盤になると確信している。

演奏家にとっての名器との出会いとは――

演奏家は名器との運命的な出会いで
人生航路が大きく変わることが……。

名演奏家と名器が奏でる妙なるハーモニーを秋の夜長に――。

東京藝術大学・学長
澤和樹
(さわ・かずき)

東京藝術大学までの道のり

私とヴァイオリンとの出会いは、三歳の頃、母が読んでくれた童話「三匹の子豚」の一匹が、ヴァイオリンを奏しように弾いているのに興味を示し、その楽器をどうしても欲しいとせがんだことから始まる。母は三歳の兄の事ゆえ、デパートで、プラスチック製のヴァイオリンの形をしたおもちゃを買い与えようとしたが、「ちゃんと音の出るのがいい!」と言って譲らず、やむなく楽器店で八分の一サイズのヴァイオリンと弓を買い揃え、早速、その楽器店の二階で教えていた先生に手ほどきを受けることになった。

普通のサラリーマン家庭で、両親ともに息子を音楽家にとは夢にも考えていなかったが、小学二年生から縁あって東京藝大出身の東儀祐二(とうぎ ゆうじ) (一九二八―一九八五) 先生に師事することになり、実家の和歌山から大阪にレッスンに通うようになった。レッスンは厳しく、毎度、泣いて帰るようなものだったが、不思議にやめようとは思わなかった。むしろお小遣いを貯めて、大のお気に入りのヤツシャ・ハイフェッツ(一九〇一―一九八七) のレコードを買っては、毎日、宿題をやりながら刷りきれぬほど何度も繰り返し聴いていた。小学校の図書室にあった「ヴァイオリンの名器」というような本で、楽器そのものに強い興味を抱くようになったのもこの頃だった。

中学生になると、一人で通い始めた大阪でのレッスン帰りに、イタリアでヴァイオリン製作を修行して帰ってきた楽器屋さんに立ち寄って、楽器の調整や弓の張替の合間に、イタリアで二〇〇年以上も前に作られた、まさに小学校の図書室で見た本に載っているような名器を弾かせてもらった。夢中になって終電に乗れず、泊めてもらった事も一度や二度ではなかった。中学三年の時、全日本学生音楽コンクールで優勝したことを機に、東京の音楽高校への進学を強く希望したが、家の経済的事情や、そもそも自分の息子が音楽で身をたてて行けるとは全く考えていなかった父の反対で、音高進学を諦め、地元の普通高校に入学した。その後、医師や建築家への憧れを抱いた時期もあったが、東京藝大に入学し、いよいよヴァイオリニストへの道を歩むことになる。

運命を変えた名器との出会い

学部二年生で出場した日本音楽コンクールで、子供の頃から通いつめた大阪の楽器屋さんのご厚意でナボリのアレキサンダー・ガリアーノという一七二六年製の名器を貸して頂き、入賞を果たすことが出来た。コンクール終了後、当然、楽器をお返しするのだが、その名器との別れがつかなく、かといって実家の経済力で手が届くものではなく、塞ぎ込む毎日であったが、両

親が、借金をして購入する決断をしてくれた。両親は、その返済のため、毎朝五時に起きて、おにぎりを一〇〇個作り、知り合いのうどん屋さんに卸すという内職を始め、また、専業主婦だった母親は、生命保険会社の外交員として勤めるようになり、この楽器を手に入れるために協力してくれた。



世界最高のヴァイオリン鑑定家の一人、チャールズ・ベア氏とは1978年以来、40年近い親交がある

名器「アークライト」は 素晴らしき相棒

「アークライト」は、十八世紀イギリスの産業革命の立役者となった紡績機発明で財を成したアークライト一族が所有していたことに因んで付けられたニックネームである。帰国後も、この楽器が夢に出て来るほどで、その思いを、故郷、和歌山で応援して下さる方に訴えた。日頃から音楽や芸術に理解があり、中国からの留学生の支援も手がけていた大病院の院長先生の提唱で、有志の方々と「ゲアルネリ会」が発足し、この「アークライト」を購入し、私に貸与して下さることになった。一九七八年、私が二十三歳の時である。

今こそ財団などが名器を所有し、若手演奏家に貸与される事は珍しくないが、四十年近く前の故郷の先輩たちの英断には頭が下がる。その頃、私はNHK交響楽団のコンサートマスター候補生として、学生契約で在籍し、コンサートマスターの隣で修行中だった。大学院修了と同時に、コンサートマスター就任の予定であったが、七十九年春に、NHK交響楽団と共演した



小学3年生 東儀門下として初めての発表会



名器「アークライト」と共に

ロンドン在住の名ヴァイオリニスト、ジョージ・パウク氏が、最初のオーケストラとのリハーサル中に、私の持つ楽器がただならぬものであることに気づき、休憩中に話しかけてきた。

リハーサル後に、彼のホテルを訪ね、彼の持つストラディヴァリとゲアルネリ・デル・ジェスを弾き比べたりするうちに、「N響のコンサートマスターは、素晴らしいキャリアだが、まだ若いのだからソリストへの道を求めて留学してはどうか」とアドヴァイスをもらった。三ヶ月悩んだ末、オーケストラを辞めて、パウク氏の住むロンドンへの留学を決意した。名門オーケストラの重要なポジションを辞し、先が保証されない留学の道を選ぶことは不安だらけだったが、ゲアルネリの名器を持つに相応しい演奏家を目指すには、更なる修行が不可欠と感じた上での決断だった。

「アークライト」は、その後も多くの大切な人々との出会いのきっかけを作ってくれたし、私に技術的にも音楽表現の上でも多くのことを学ばせてくれている。この素晴らしい楽器との出会いに日々感謝しながら、多くの人々に幸せを届けるために精進を続け、人類の遺産とも言える文化財を大切に次の世代に継承して行きたいと思う。

筆者略歴

一九五五年生まれ。七十九年、東京藝術大学大学院音楽研究科修了。ロンドン・ティボ、ヴィエニャフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞など、ヴァイオリニストとして国際的に活躍。八十四年、東京藝術大学に迎えられ、ともに本格的な演奏活動を開始。九十年澤クワルトット結成。九十六年、指揮活動開始。二〇〇四年、和歌山県文化賞受賞。十五年、英国王立音楽院名誉教授。十六年四月より東京藝術大学学長。

ストラディヴァリ(右3挺)と
ゲアルネリ・デル・ジェス
(左1挺)



ヴァイオリン製作工房
(台南市の奇美博物館にて)



の調子が悪く、ロンドン公演の直前に、世界的な楽器商で鑑定家としても著名なJ・&A・ベアを訪ねた。相談したところ、ガリアーノの修理には数日かかるため、その間、J・B・グアダニーニを貸し出してもらえる事になった。幸いロンドン公演は大成功に終わり、翌日の新聞評も上々だった。グアダニーニを返却するときに、幼い頃からの憧れだったストラディヴァリやゲアルネリの名器を一目で良いので見せてもらえませんかとお願したところ、店主のチャールズ・ベア氏が快く応じてくれ、アマティ、ストラディヴァリ、ゲアルネリなどの名器を次々に並べ、試奏させてくれた。まさに天にも昇る気持とはこの事だ。中でも一七三二年製のゲアルネリ・デル・ジェスの「アークライト」は、弾き手の欲求にどこまでも応えてくれる奥の深さを感じ、最も印象に残った。

上野「文化の杜」新構想実行委員会 発足1年を振り返って――

国際文化都市・東京の情報発信源の中核を期待される「上野」の諸機関・施設。
それを統括する事務局の奮闘ぶりを紹介。

実行委員会が目指すものとは

上野「文化の杜」新構想実行委員会が発足して、この九月一日で一年を迎えた。実行委員会は、上野が「文化の杜」として年間三〇〇万人の来客数を誇る国際文化都市、交流拠点となることを目指して、東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京都美術館、東京文化会館、東京都恩賜上野動物園、上野の森美術館、東京藝術大学、台東区、上野観光連盟、東日本旅客鉄道株式会社



といった上野の文化施設や関連機関、文化庁と東京都がオブザーバーで構成され、アーツカウンシル東京（公益財団法人 東京都歴史文化財団）が共催として事業を行っている。
もともとは平成二十五年に宮田東京藝術大学学長と青柳文化庁長官（共に当時）が発起人となり、始めた『上野「文化の杜」新構想推進会議』が母体である。上野の文化施設が連携し、文化資源の宝庫である上野の魅力を発展させるための新しい構想書が推進会議でまとめられ、その具体的実施を担うのが実行委員会という位置づけである。
はじめに共通パスポート、イベント、ポータルサイトと事業ごとに専門委員会を設置しながら実施体制を整えていく。実行委員会に三つの専門委員会と書く大きな組織のように聞こえるが、兼任の方も多く、みなさんやりくりされながら、実行委員会の運営に尽力くださっている。

船出はパスポートの発行から

最初に形になったのが、共通バスポート事業。実行委員会発足前に東京国立博物館、国立



「UENO WELCOME PASSPORT」
（平成28年8月15日発売）

もちゃ絵「立版古」（たてばんこ、歌川広重筆「名所江戸百景・上野清水堂不忍池」も好評だった。
各文化施設の若手メンバーが中心になって、活発な議論と意見

交換を盛んに重ねた成果により、内容とデザインが一体化したとても魅力あるものとなる。

平成二十八年八月十五日には、国立西洋美術館の世界遺産登録を記念して「UENO WELCOME PASSPORT」を発売し（平成二十九年一月まで有効）、十四施設の参加へと成長した。UENO WELCOME PASSPORTは新たな回遊性を生み出すことにも貢献し、この事業に賛同くださったアメ横商店街連合会がオリジナル版を発注、上野精養軒では結婚式を挙げるカップルにプレゼント提供として活用するなど地元へも広がっている。さらなる目標として、電子チケット化を次の課題とするなど、様々な検討を進めている。

ポータルサイト事業では、上野公園の芸術文化活動を紹介するウェブサイトを平成二十八年三月に立ち上げた（<http://ueno-bunka.jp>）。各文化施設の情報の隙間を埋め、情報を横串に発信することを目的としている。続いてフェイスブックやツイッターといったSNSも開始した。これらサイトでのアクセス数の向上や他メディアとの連携



看板上掲式を行い、門出を祝っていただいた。左より青柳正規・前文化庁長官、宮田亮平・現文化庁長官、北郷悟・実行委員会会長（平成27年9月2日）

に加え、上野公園周辺の地元情報をどう取り込むかが喫緊の課題である。

イベント事業では、この春に「上野文化の杜アーツフェスタ・二〇一六春」と銘打ち三月二十五日（二十七日）に上野公園噴水前広場で実施し、花見客にも



「アーツフェスタ・2016春」文化プログラムシンポジウム（平成28年3月25日）

あやかり約二十六万人を集客した。国立西洋美術館カフェ・カラヴァッジョ、藝大御興展示などに加え、ステージでは東京文化会館「まちなかコンサート」、藝大邦楽科、地元小中学校などの演奏披露、オープニングセレモニーとして文化庁によるシンポジウムも開催。奇しくも新旧の文化庁長官が揃うとともに、吉見俊哉東大教授、山崎亮東北芸術工科大学教授をパネリストに迎え、上野の文化芸術の展望を熱く語っていただいた。

目をはなせないイベントの連続に 御注目あれ！

この一〇月二十一日～二十三日は、上野ゆかり



上野「文化の杜」
新構想実行委員会
プロデューサー
吉野 康彦
（がき・やすひこ）

の岡倉天心が、世界に日本の文化芸術の精神を紹介した『茶の本』の中で、茶室に貫く美学を「数寄屋」ということばのもつ多様な意味で解説していることに着目し、各文化拠点の強みを活かした文化芸術イベントを上野公園一帯にて複数同時開催を計画している。世界トップレベルの気鋭のアーティストによる屋外作品が「文化の杜」に集い、上野公園各所の特徴を活かした展示が、昼間だけでなく夜間にも展開される。これは公園内文化施設の五館が夜間開館を実施するのにもあわせる。国立西洋美術館でのコンサートや国立科学博物館、東京都美術館、上野動物園、東京藝術大学と連携するワークショップといったこれまでにないプログラムも充実している。詳細は<http://sukifes.tokyo>まで。
※ ※ ※

上野「文化の杜」新構想実行委員会は発足して一年ほど経ったばかりで、まだまだ力およばずながら、各方面からの期待が高まっていることを日々実感している。参加メンバーの連携をいっそう進めながら、上野「文化の杜」新構想の実現に尽力していく次第である。

筆者略歴

一九六一年宮崎県生まれ。早稲田大学政経学部卒業。建築、アートやソーシャルなプロジェクトのプロデューサー。ドキュメンタリー映画「ハープ&ドロシー」（二〇一〇）、第三回OPEN SHOWCUP+（横浜美術館、二〇一六）、名古屋市長城公園「名城コミュニティサポーターパーク（仮称）」（二〇一七完成予定）等をプロデュース。

熱気につつまれた日々

わが国を代表する文化・芸術の施設が集中する上野の杜は、春から夏にかけて多くの人々の耳目をひくニュース満載でした。

アフガニスタンからの流出文化財無事帰る

2020年の東京オリンピック、パリンピックの年をめざして、上野公園一帯が大きく変貌しようとしていること



東京国立博物館において、アフガニスタンからの流出文化財は国際梱包され、帰国の途へ



成田国際空港へむかう文化財を関係者一同見送りする。駐日アフガニスタン大使館のモハバット副大使たちが輸送に付き従った(8月5日。東京国立博物館にて)



上野の山文化ゾーンの関係者をはじめ、地元の人々の念願だった国立西洋美術館がユネスコ世界文化遺産に登録される



上野公園に設置されたパブリック・ビューイングはリオデジャネイロ・オリンピック、パリンピックを大いに盛り上げた

財団専務理事 小宮 浩 (こみや・ひろし)

は、今号で紹介した通りです。そして、まずは御報告です。前号で取り上げましたアフガニスタンからの流出文化財の返還に関しては、当初の予定では九州国立博物館、東京国立博物館で開催されました「黄金のアフガニスタン展」で公開された秘宝と共に世界を巡回し、しかる後に母国に帰るといふものでした。しかし、様々な要因が加わり、この計画は実現不能となりました。結果的にはアフガニスタン政府の意向で、文化財は同政府の責任のもと、直接母国への帰還が決まりました。当財団は覚え書きに従って、国際梱包の費用を負担しま

した。

8月5日、東京国立博物館で梱包された文化財は空港へ。9日、エミレーツ航空の便で成田を立ち、ドバイ経由で10日にカブル空港に無事到着しました。

この件をめぐることは、関係者の間でいろいろな意見や感想もあるようですが、なにはともあれ無事帰国の報に事務局は安堵しました。

重なる朗報

春4月、東京都立美術館で生誕300年を記念した「伊藤若冲展」が開催されましたが、人気が人気をよび、一ヵ月余の期間中に44万6000人の観客動員数を記録。最高320分の待ち時間が話題をよびました。展覧会自体は若冲の魅力を超すところなく露出したものでした。

伊藤若冲展が一段落した7月、上野の杜が蟬時雨につつまれていた17日に朗報が舞い込んで来ました。日本で唯一のル・コルビュジエの作品である国立西洋美術館が世界7カ国にある17作品の一つとしてユネスコの世界文化遺産に登録されたのです。

この慶事は上野の山を国際文化都市東京の顔にするという構想を大いに力づけることとなりました。

夏本番の8月、南米ブラジルのリオデジャネイロで第31回夏季オリンピックが、5日から21日まで開かれました。また、9月7日から18日まで第15回夏季パリンピックが開かれました。そのパブリック・ビューイングのための巨大な映像装置が「東京2020ライブサイ

ト in 2016——リオから東京へ」と銘うった公式事業として上野公園の中に設置され、迫力プラス臨場感あふれる実況画面に多くの方たちが見入っておられました。

さて、この記事の取(と)りかざる話題は、上野動物園で飼育されているアジアゾウの「ウタイ」の妊娠でしょうか。ウタイは、2002年に皇太子御夫妻の長女・愛子さまの誕生を祝ってタイから贈られました。

群れで生活する野生の環境とは異なり、飼育されているゾウの繁殖はなかなか難しく、上野動物園でも初めてのことで。土居利光園長によれば、アジアゾウの妊娠期間は21〜22ヵ月なので、出産は来年の6月から7月頃のようなです。母子共に順調に出産にたどり着けることを祈念いたします。

話を元に戻します。日本に流入してから15年、平山郁夫先生の手によって保護されていたアフガニスタンの人々の誇りでもある貴重な文化財は、紆余曲折を経て無事、故国へ戻りました。しかし、アフガニスタンの状況はまだまだ前途多難です。タリバンが勢力を盛りにかえってきたとか、首都カブルでテロ発生などといったニュースに接するたびに心が痛みます。

皆さま、御承知のようにカブル国立博物館には次の言葉が刻まれています。
A nation stays alive when its culture stays alive.

文化・芸術活動にたずさわる一員として、私たちは常にこの言葉を忘れないよう心がけていきたいと思っています。

役員等のご紹介

当財団の役員等を左記のとおりご紹介いたします。

- ◎名誉顧問(二名)
三笠宮崇仁殿下
- ◎顧問(二名)
依谷 利幸 弁護士
玉井 賢二 (公財)平山郁夫シルクロード美術館副理事長
- ◎評議員(二十名)
秋山耿太郎 朝日新聞社 顧問
池田 政治 東京工科大学 デザイン学部長
板野 裕爾 (株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長
浦井 正明 寛永寺 長蔵
遠藤 充 (株)三越伊勢丹 呉服・美術統括部 美術商品部長
奥島 孝康 白鷗大学 学長
加賀 信子 (株)高島屋 美術部長
是枝 伸彦 (株)ミロク情報サービス 代表取締役会長
酒井 裕 (株)精養軒 代表取締役社長
佐藤 一郎 金沢美術工芸大学 教授
白井 勝也 (株)小学館 最高顧問
澄川 喜一 (公財)横浜芸術文化振興財団 理事長
高橋 司 (公財)鹿島美術財団 常務理事
野間 省伸 (株)講談社 代表取締役社長
箱島 信一 (一財)歴史民俗博物館振興会 理事
土生 修一 (公社)日本記者クラブ 事務局長
松本 伸之 東京国立博物館 副館長
真室 佳武 東京都美術館 館長
水野敬三郎 東京藝術大学 名誉教授

吉見 淳一 読売新聞東京本社 事業局長

- ◎理事(十名)
理事長 宮廻 正明 東京藝術大学 教授
副理事長 青柳 正規 東京藝術大学 社会連携センター 特任教授
専務理事 小宮 浩 当財団 専務理事
理事 伊東信一郎 ANAホールディングス(株) 代表取締役会長
久代 信次 (株)東京ドーム 代表取締役会長
高嶋 達佳 (株)電通 相談役
滝 久雄 (株)NKB 取締役会長兼創業者
谷川 史郎 (株)野村総合研究所 理事長
西浦 忠輝 国士館大学 教授
野口 昇 (公社)日本ユネスコ協会連盟 理事長
- ◎監事(二名)
西巻 茂 税理士
布施 謙吉 弁護士
二〇一六年七月現在 敬称略／五十音順
- 文化財保存修復支援カレンダー募金のお知らせ
二〇一七年のカレンダーは、昨年に引き続き、出光美術館所蔵の国宝「伴大納言絵巻」を、東京藝術大学大学院美術研究科日本画研究室が現状模写した作品を題材にし、今回で五年目となります。
平安時代における四大絵巻の一つで、実際に起きた事件をもとに制作された壮大な

歴史ドラマが描かれています。上、中、下巻に分かれているこの物語が完結するまで、今後数年間にわたり取り上げてゆく予定ですのでご期待願いたいと思います。
また、オリジナル作品に優るとも劣らない模写制作の卓越した技術をご堪能いただくとともに、文化財保護の重要性をご理解いただきご支援いただければ幸いです。
一口二千五百円以上のご寄付をいただいた方に、このカレンダーを一部贈呈します。お申し込みは左記までお問い合わせください。



中巻-6の場面(模写:山田雄真)

【お問い合わせ】
文化財保護・芸術研究助成財団カレンダー係
電話 (〇三)五六八五―二三一一
受付時間 十時〜十七時(土、日、祝日及び十二月二十八日〜一月四日を除く)

カレンダーをプレゼントします

当財団では、文化財保護の精神と重要性を広く知っていただくため、前記の二〇一七年版文化財保存修復支援カレンダーを、応募いただいた方の中から抽選で二十名様にプレゼントします。

応募方法等

ハガキに、「文化財保存修復支援カレンダー希望」とご記入の上、郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢を明記し、左記へお送りください。なお発表は、当選者への発送をもって代えさせていただきます。

- ◎応募先
〒一〇一〇〇〇七
台東区上野公園十二―五十
(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
カレンダープレゼント係
- ◎締切
平成二十八年十一月末日

お願い

◎熊本地震被災文化財の救援と復旧のための募金をお願い

去る四月十四日以降、熊本県を中心に発生した熊本地震により被災した文化財の救援・復旧支援事業につきましては、前号(二〇一六年夏号No.811号)で緊急報告とお願いをしたところであります。
当財団は、文化庁はじめ関係諸機関と協力し、被災文化財の救援・復旧活動に着手したところがありますが、まだまだ財源が不足しています。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。
募金のお振込み手続きは次頁の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

銀行振込 ①銀行名②口座番号③名義 ①三井住友銀行 上野支店 ②普通 8399622 ③(公財)文化財保護・芸術研究助成財団 ※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただくとう幸いです。 (電話：〇三―五六八五―二三一) 郵便振替 ①振替番号②加入者名 ①00160・5・12319 ②(公財)文化財保護・芸術研究助成財団 ※通信欄に「熊本地震」とお書きください。 なお、募金はクレジットカードからも可能です。詳細は当財団のホームページをご覧ください。 ◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い 【賛助会員】 当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。 法人正会員 年額(1口) 50万円 個人正会員 年額(1口) 1万円 維持会員 年額(1口) 10万円 【ご寄付】 賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法はいろいろありますので、左記のとおりご紹介します。詳細は当財団事務局又は左記の問い合わせ先まで。 ①特定寄付信託 信託した金銭を運用収益とともに寄付するものです。当財団はみずほ信託銀行と特定寄付信託に関して契約しています。 問合せ みずほ信託銀行(03・3274・9203) ②クレジットカード クレジットカードの利用額の一定割合をジャックスが当財団に寄付をするもので	す。当財団は「社会貢献」をテーマにした「寄付金付きクレジットカード」を発行している(株)ジャックスと契約しています。 問合せ：(株)ジャックス(東京センター046・298・6000 大阪センター06・6872・6111) ③Y A H O O ! J A P A N ネット募金 クレジットカード又はTポイントにより寄付するものです。 ネットからY A H O O ! J A P A N ネット募金を選択「文化・スポーツ」を選択、「文化財保存修復募金」からご寄付できます。 ④遺贈 遺言によるご寄付も受付けております。 ⑤銀行振込又は郵便振替 銀行振込や郵便振替でもご寄付を受付けております。 ☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。
--	---

●平成28年5月26日から9月15日まで 敬称略/順不同 ☆寄付金 ○文化財保存修復・芸術研究等助成事業 東日本遊技機商業協同組合 (宗)信楽院 Y A H O O ! J A P A N ネット募金 (171名様) ○松尾大社本殿等修復支援事業 水野建設(株) 他109件 ○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業	【後編】不折コレクションを中心に 九月九日(金)～十二月十六日(金) (演奏会) ☆東京藝術大学奏楽堂 (〇三・五五二五・二三〇〇) ①うたシリーズ F.P.トスティ没後100年記念とその芸術歌曲の魅力 十一月五日(土)十五時～(二千円) ②藝大プロジェクト2016「サティとその時代」第4回 サティ交遊録 十一月六日(日)十四時～(三千円) ③モーニングコンサート11 十一月十日(木)十一時～(千円) ④藝大定期邦楽第83回 第一部・第二部 十一月十二日(土)十三時・十六時半(各部三千円) ⑤モーニングコンサート12 十一月十七日(木)十一時～(千円) ⑥東京藝大シンフォニーオーケストラ定期第55回(藝大定期第378回) 十一月十九日(土)十五時～(千五百円) ⑦弦楽シリーズ Viva Italia! 十一月二十日(日)十五時～(二千円) ⑧東京藝大ウインドオーケストラ第82回定期演奏会 十一月二十三日(水・祝)十四時～(千五百円) ⑧藝大フィルハーモニア・合唱定期(藝大定期第379回) 十一月二十七日(日)十五時～(三千円) ☆東京文化会館 (〇三・三八二八・二一一) ①プラチナ・シリーズ 第4回 タチアナ・ヴァシリエヴァ(チェロ) 十一月二日(水)十九時～(五千円他) ②モーニングコンサート番外編「秋の夜コソサート」押部朋子(フルート)ほか 十一月十一日(金)十九時～(五百円) ③東京文化会館開館55周年・日本ベルギー友好150周年記念 オペラ「眠れる美
---	--

○熊本地震被災文化財救援・修復支援事業 東京藝術大学アフガニスタン特別企画展 実行委員会 (公財)京都古文化保存協会 (NPO)愛岐トンネル群保存再生委員会 川口神社 群馬県教育委員会文化財保護課 久留木の会 神奈川の文化財の未来を考える会 ひょうごへリテージ機構 〇(公財)日本美術刀剣保存協会 女川獅子振り復興協議会 長崎県美術館 (一社)日本建設業連合会 社会貢献活動協議会	文化ゾーンフェスティバル」として展示会や演奏会等様々な催し物を開催中(予定)です。その中で展示会等の一部をご紹介しますので、ご利用のご参考にしてください。詳細はそれぞれの主催者等にご確認ください。 (展示会等) ☆東京国立博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①特別展「平安の秘仏―滋賀・樺野寺の大観音とみほとけたち」 九月十三日(火)～十二月十一日(日) ②特別展「禅―心をかたちにした―」 十月十八日(火)～十一月二十七日(日) ③秋の庭園開放 十月二十五日(火)～十二月四日(日)十時～十六時 ☆国立科学博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①企画展 「日本の自然を世界に開いたシーボルト」 九月十三日(火)～十二月四日(日) ②特別展「世界遺産ラスコー展 「クロマニヨン人が残した洞窟壁画」 十一月一日(火)～2017年二月十九日(日) ☆国立西洋美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①企画展 「クラナハ展―500年後の誘惑」 十月十五日(土)～平成二十九年一月十五日(日) ☆東京藝術大学大学美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①三田村有純退任記念展 「黄金境界」江戸蒔絵の流れを受けて 十月二十五日(火)～十一月六日(日) ②退任記念展「宮田亮平 喜憂愛藝」 十一月十四日(月)～十一月二十三日(水・祝) ☆国立国会図書館 国際子ども図書館 (〇三・三八二七・二〇五三) ①展示会「こんにちは！イタリヤ
--	--

女 House of the Sleeping Beauties 「日本初演」 十一月十日(土)・十一日(日)各日十五時～(二万三千円他) ☆上野学園 石橋メモリアルホール (〇三・三八四三・三〇四三) ①上野学園大学「第65回オーケストラ定期演奏会」 十一月十八日(金)十九時～(千五百円) ②上野学園大学「第5回合唱定期演奏会」 十一月二十五日(金)十九時～(千円) ③上野学園中学校総合演奏会 十一月二十六日(土)十一時～(無料) 上野学園高等学校総合演奏会 十一月二十六日(土)十三時半～(無料)	今号の表紙 平山郁夫 園の長浜 多伎町 出雲路 神話の国・出雲。出雲の創世について描いた国引き神話が「出雲国風土記」に記されている。八束水臣津野命という神が、狭い出雲の国土を拡大しようとした地域を網にかけて引つ張って国引きを続け、最終的には出雲大社のある西の端から安道湖、中海を経て美保関に至るまでの現在の島根半島が形成されたと語る、実に雄大な物語である。 現在は合併によって出雲市となっている多伎町の園の長浜(稲佐の浜)も、国引き物語の舞台の一つである。 この作品は平山画伯の画集「出雲路」に収録されたもので、日本の古代史に寄せる画伯のなみなみならぬ
---	---